

企業における個人技能の磨き方と環境変化への適応

企業における学位取得とは！開発分野の大きな変化への対応とは！

川崎重工業（株）技術研究所 横山 稔

学生時代はプラズマのイオンエネルギーを電場と磁場を用いて分析する装置の研究を行っていた。修士課程までで培った技術で社会貢献は可能であり、また、社会においても博士取得のチャンスはあると考えて企業の研究所への就職を希望し、幸運にも希望通り川崎重工業へ就職し、技術研究所へ配属された。

就職後、リング型加速器（放射）を用いたFEL装置（SR-FEL）の開発に参画した。開発しているSR-FELにおいて自己の技術の向上は会社にとっても同様にプラスになるとの思いから高いモチベーションで自己技術のレベルアップを図りながら開発を進めることができたと考える。レベルアップのために学会発表を行い専門家と議論するとともに論文投稿を多数行った。その結果として装置性能を達成に貢献できかつ博士取得に至った。その後リニアックFELの開発に参画したが同様に高いモチベーションで開発を進め、装置性能を達成することができた。これらの達成感は多くの課題難題がある研究や開発においてそれらを解決しながら一生懸命取り組み得られたものであり、大学であれ企業であれ所属は関係ないと考える。重要なことはどこにおいても一生懸命取り組むことで、当然企業はそういう一生懸命な技術者、研究者を歓迎します。

リニアックFEL開発後、所属していた関東にあった研究所から関西の研究所へ移動した。開発対象も大きく変わってきているが、対象が異なっても自分がこれまで培った保有技術（電磁場、光、RF、計測、真空）の一端があれば十分開発に参画可能との思いで現在もいくつかの新しい開発を行ってきている。企業においてはこのような環境変化や開発対象の変更に対応できる組み換えに強い技術者、研究者を要しているのではないかと考える。

以上